



真っ赤に色ついたトマトのようになが何の人

みさとまんと

vol. 5

青年海外協力隊員として アフリカのマラウイ共和国に派遣

畠山 正俊さん(関田・27歳)

六郷地区・関田の畠山正俊さんがことし12月から再来年の12月までの2年間、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊員としてアフリカのマラウイ共和国に派遣されることになり、11月28日の出発を6日後に控えた同月22日、松田町長を表敬訪問しました。



畠山さんが派遣されるマラウイ共和国はアフリカの南東部に位置し、北・北西をタンザニア、東・南・南西をモザンビーク、西をザンビアの国境と接している人口約1,230万人の国。この国で畠山さんは、ジェンダー青少年地域省の村落開発普及員として、首都リロングウェから約200km離れた人口約3万人の村「ビリラ」にある孤児施設で、ことしの12月から2年間活動することになりました。

勤 務先となるのは、エイズウイルスなどの感染症で親を亡くした子どもたちを中心として、貧困に窮した子どもたちが生活している「コメラ孤児施設」。施設側の要請では、「野菜の栽培を推進することによって食糧の安定供給を図りたいということですが、井戸もなく水が安定的に供給できていない地域ということ、水を安定供給することによって農業の質を安定させる、そしてそれに伴って収入の向上を図るということが当面の目標となります。」

し かし、水源確保のために井戸を掘り、ポンプを設置するにしても、「(現地では)活動資金はでないの、道具に頼っては十分な活動はできない。そのため、現地の人をいかに巻き込んで、現地の人たち自身が「自分たちのためにやってみよう」ということをいかに動機づけられるかということが重要なことだと考えている」と畠山さんは話します。

ま た、井戸の掘削やポンプの設置などの技術的な指導も求められるというのですが、「今や明日食べる魚を

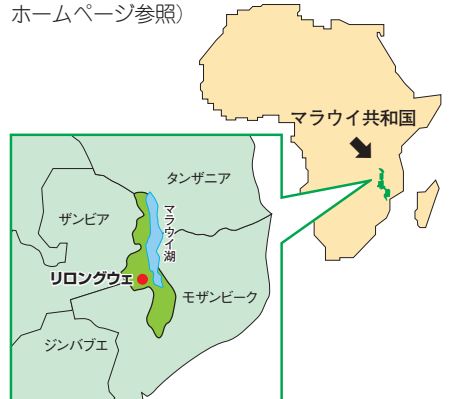
与えるのではなくて、これからずっと食べていけるように魚の釣り方を教える」というたとえのように、技術の指導はもちろんだが、そのための知識であつたり考え方というような新しい価値を(現地の人に)与えるということが継続してできればいいと思うし、そうしなければならぬと思っている」と、自分の果たすべき役割をしっかりと認識し、これからの活動に対する強い意欲が感じられました。

横手高校を卒業後、東北工学部、同大学大学院工学研究科を経て、2003年にTDK株式会社に入社。研究職に従事。2004年同社を退社。2005年12月からアフリカのマラウイ共和国に村落開発普及員として派遣。



マラウイ共和国

アフリカ南東部に位置する内陸国。面積は11万8,000km²と北海道と九州をあわせたくらいの大きさで、人口約1,230万人。首都はリロングウェ。公用語はチェワ語と英語で、人口の半数がキリスト教徒。1891年にイギリスの保護領となり、1964年にイギリスから独立。農業に基盤を置き、労働人口の85%が農業及び農業関連事業に従事しており、タバコ、紅茶、砂糖などの農産物が輸出の大半を占めている。気候は熱帯サバンナ気候帯に属する。
(「外務省」および「独立行政法人国際協力機構」ホームページ参照)



千屋断層の断層崖を自分たちの手で守ろう

千屋断層露頭保護活動

国の天然記念物に指定されている「千屋断層」の断層崖を保護しようと、千畑中学校1年生86人と町文化財保護協会の会員6人が11月18日、露頭の崩落が進んでいる掘削調査跡に土のうを積み、一時的に埋め戻す作業を行いました。



▲砂をつめた土のうを積み上げました

この千屋断層は、明治29年の陸羽地震でできた断層で、昭和57年に東京大学地震研究所が中心となり発掘調査を実施。その結果、断層面に沿ってずり上がるように動く逆断層としては東日本最大級で、地震研究のうえで非常に貴重な資料ということから、平成7年に国の天然記念物に指定され、以後千屋字中小森の発掘調査跡を埋め戻せず一般公開してきました。

しかし、年月の経過によって断層崖の崩落が進み、現在ではその様子を観察することができなくなりましたことから、旧千畑町教育委員会で平成十四年に「千屋断層緊急調査委員会」委員長・松田時彦東大名誉教授を発足させ、保存策を調査・研究。会では「断層保存観察館」の建設による保存策などにも提言しましたが、町の財政事情などにより早期実現が困難なことから、今回しばらくの間土のうを積んで保存することになりました。

この日は、同断層を長年にわたって研究している東北大学理学部の今泉俊文教授も現場を訪れ、「国内の研究者だけでなく世界中の人がこの断層を観に来ているが、最近ではどこに断層があるのかも分からなくなっ

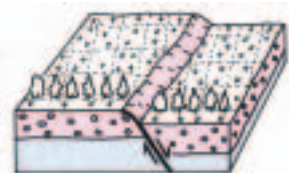
た。この断層をしつかり保存するため、しばらくの間埋めておくことにした。皆さんは”世界の千屋断層“をしばらくの間眠らせる時の人になる」と作業前の中学生を激励するとともに、防災について考えるきっかけとなる貴重な文化財の、一日も早い復旧を訴えました。



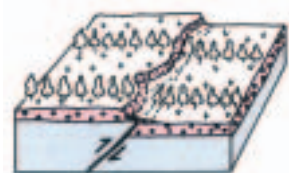
▲一般公開していた頃の現地

＜断層の3つの基本形＞

千屋断層はこの中の「逆断層」に該当します。



正断層



逆断層



横ずれ断層

一般公開している部分の断面図 ▶

